

2021年12月期  
第2四半期決算説明会

**TAMRON**  
Focus on the Future

2021年8月6日（金）  
株式会社タムロン  
（証券コード：7740）  
Tamron Co., Ltd.

# 目次

## I.2021年概況

1. 2021年上期総括
2. 2021年通期見通し

## II.2021年上期実績

1. 2021年上期連結実績
2. 営業利益変動要因
3. 2021年上期セグメント別実績
  - ①写真関連事業
  - ②監視&FA関連事業
  - ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

## III.2021年通期計画

1. 2021年通期連結計画
2. 2021年通期セグメント別計画
  - ①写真関連事業
  - ②監視&FA関連事業
  - ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業
3. ESGへの取り組み

## IV.参考情報

1. 財政状況
2. 設備投資、減価償却費、研究開発費
3. キャッシュ・フロー
4. 配当金、主要経営指標
5. 為替影響

# I . 2021年概況

## I-1. 2021年 上期総括

### 【 経営環境 】

- ▶ 市場環境 : **レンズ交換式カメラ、交換レンズ市場が前年同期の約半減から大きく回復**
  - ・レンズ交換式カメラ ⇒ 数量38%増、金額76%増
    - ※うち、ミラーレス : 数量55%増、金額114%増
    - ※うち、一眼レフ : 数量21%増、金額13%増
  - ・交換レンズ ⇒ 数量33%増、金額59%増
- ▶ 為替動向 : **売上高・利益にプラス影響** (ドルは前年同期並み水準だが、ユーロが約10円の円高)

### 【 当社実績 】

- ▶ 連結業績 : **30%以上の増収、かつ営業利益率13%と高収益化**  
⇒2020年通期の営業利益36億円を、2021年は上期だけで達成
- ▶ 写真関連 : 自社ブランドで**新製品3機種投入、当社初のAPS-Cサイズミラーレス用投入**  
自社ブランド**約40%増収、OEM約60%増収**
- ▶ 監視&FA関連 : **中国市場での売上高は約倍増**
- ▶ 車載 : 増収基調が継続し**約45%増収**
- ▶ その他 : **自己株式消却 (95万株) を実施** (消却前の発行済株式総数に対する割合 3.66%)

4

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON  
Focus on the Future

・はじめに、2021年の経営環境、当社業績の概況をご説明します。

・上期は、新型コロナウイルス感染症拡大は収束には至らず、地域差はあるものの、引き続きロックダウンや外出規制をはじめ、各種行事やイベント等の自粛や延期、旅行の敬遠等も継続し、また企業活動にも一定の制約を受けることとなりました。

・しかしながら、レンズ交換式カメラ市場は、前年が大きく減少した反動もあるものの、ミラーレスが成長基調に戻り大幅増となったことに加えて、従来の一見レフも増加に転じたことで、想定以上の市場回復となりました。

・当社においては、市場が落ち込んだ2020年も自社ブランド新製品をコンスタントに投入しており、それらの効果が市場の想定以上の回復も伴って大きく寄与し、OEMも反動増等により、主力の写真関連事業が大幅な業績改善を果たすことができました。

・また2020年でも増収を果たした車載分野は、2021年も引き続き増収基調を継続し約1.5倍の増収、監視分野でも中国市場で売上倍増となるなど、産業向けでの注力分野でも業績を伸ばすことができました。

・結果、当社の2021年上期業績は、30%以上の大幅増収となり、高い営業利益率にもなったことで、営業利益は36億円と、2020年の通期での営業利益額36億円を上期で達成しました。

・なお、6月には、発行済株式総数に対して3.66%となる95万株の自己株式の消却も実施しました。

## I-2. 2021年 通期見通し

### 【下期経営環境】

- 市場環境 : 市場環境は回復基調ながら、市場の伸び率は上期からは落ち着く想定。半導体逼迫に起因した部材供給に懸念。

### 【当社見通し】

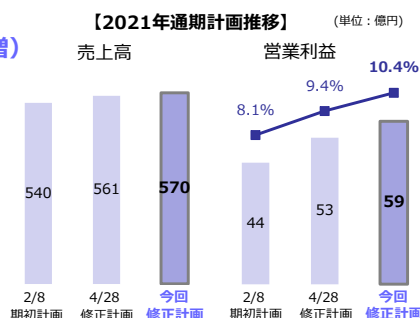
- 下期は中長期を見据えた先行開発等での経費増、部材供給対応等でのコスト増等を見込むが、

#### 通期計画を上方修正

(4月の上方修正に続き今期2回目。期初計画から大幅増)

⇒併せて配当予想も10円増配(期末配当)に修正

- 自社ブランド : 当社初のXマウント用交換レンズ投入
- 監視&FA : 上期はTV会議用の落ち込みで停滞  
⇒通期では2桁増収へ
- 車載 : 売上高50億円の大台へ



- ・次に、5ページ目では2021年通期の見通しについて概況をご説明します。
- ・下期の経営環境については、基本的には回復基調で推移するとは思いますが、足元では国内での新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、その他にも半導体逼迫等による部材供給面のリスクもあり、それらにしっかりと対応していかなければならないと考えています。
- ・通期業績としては、将来を見据えた先行開発への早期着手や研究開発面以外での施策実施等による販管費増加を見込み、また部材供給面へのリスクに対応した先行手配等によるコスト増を見込みますが、本日、4/28に上方修正した計画を再度上方修正し、売上高は18%増収の570億円、営業利益は65%増益、そして営業利益率10%台となる59億円を計画しています。
- ・また、通期業績を上方修正したことに伴い、期末配当金の予想を10円増配し、年間配当金60円とする配当予想の修正も行いました。

- ・なお、自社ブランドでは下期は当社初の富士フィルムXマウント用レンズを投入する予定であり、更にミラーレス用のラインナップ拡充を図ります。
- ・監視&FA関連事業も上期では売上高が横這いにとどまりましたが、通期では2桁増収を実現して売上高100億円、上期好調であった車載分野も通期で売上高50億円と、注力領域の事業規模を大台へと進展させます。併せて、来期以降の更なる成長を着実にするため、顧客とのパートナーシップ強化や新製品開発を進めていきます。

- ・以上が概況のご説明となります。2021年を初年度とする新中期経営計画「Vision23」へ向けて順調なスタートが切れました。引き続き業績の向上を図ると共に、中長期的視野での施策も順次行っていきます。

## Ⅱ. 2021年上期実績

## II - 1 . 2021年上期 連結実績

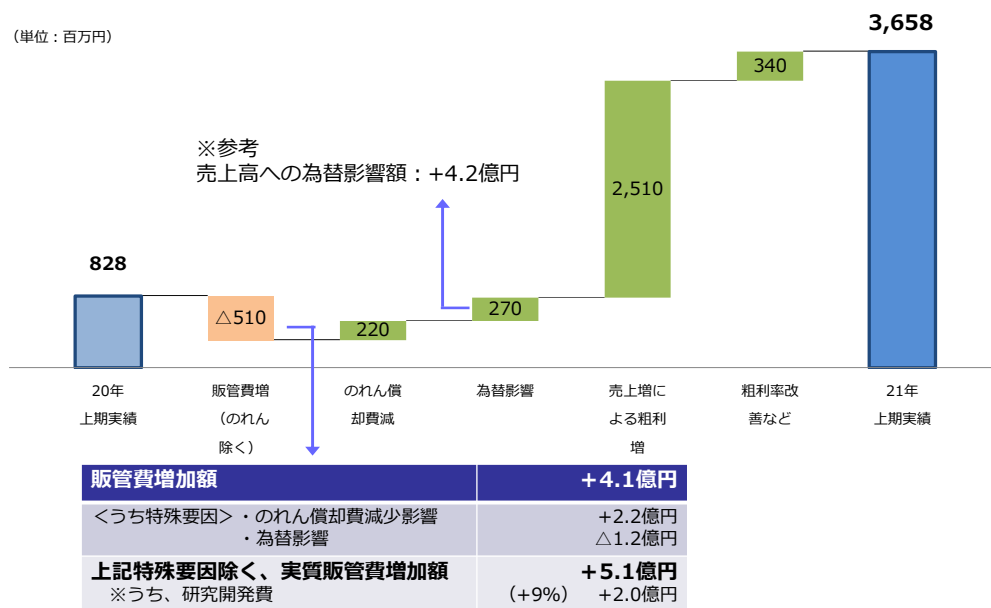
- 30%以上の大幅増収、粗利率2%改善により、**営業利益は4.4倍となる大幅増益**
- 自社ブランド、OEM、車載レンズの好調等により、売上・利益ともに計画を大きく超過  
(7/28 業績予想修正を公表済み)

(単位：百万円)	2020年 上期実績	2021年 上期計画 (4/28計画)	2021年 上期実績	増 減 (対前年)		増 減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	20,896	25,800	27,888	+6,992	+33.5%	+2,088	+8.1%
粗利益	7,972	-	11,211	+3,239	+40.6%	-	-
粗利益率	38.2%	-	40.2%	+2.0%	-	-	-
営業利益	828	2,300	3,658	+2,829	+341.5%	+1,358	+59.1%
営業利益率	4.0%	8.9%	13.1%	+9.1%	-	+4.2%	-
経常利益	1,164	2,300	3,750	+2,585	+222.0%	+1,450	+63.1%
経常利益率	5.6%	8.9%	13.4%	+7.8%	-	+4.5%	-
四半期純利益	843	1,660	2,685	+1,841	+218.3%	+1,025	+61.8%
純利益率	4.0%	6.4%	9.6%	+5.6%	-	+3.2%	-
ドル	108.24	106.55	107.82	△0.42	-	+1.27	-
ユーロ	119.36	126.92	129.92	+10.56	-	+3.00	-

- ・続いて、7ページから2021年上期実績の詳細についてご説明します。
- ・売上高は前期比34%増、70億円増収となる279億円となりました。これは主力の写真関連事業での63億円増収、車載での8億円の増収によるものとなります。
- ・大幅増収効果に加えて、粗利率の高い写真関連事業の売上構成比が高まったこと等で粗利率が2%上昇し、40.2%となったこともあり、粗利益が32億円の増益となりました。
- ・一方で、販管費は前期比6%増の4億円増にとどめたことから、営業利益は前期比4.4倍増となる28億円増益となりました。
- ・なお、コロナ禍ではありましたが、予想した以上に回復力が強く、4/28に上方修正した計画も、売上・利益ともに上回る結果となりました。

## II - 2 . 営業利益変動要因

(単位：百万円)



8

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON  
Focus on the Future

・8ページは、2020年上期に対する営業利益の変動要因について補足のご説明となります。

・マイナス影響としては、販管費増がありますが、損益計算書上は4.1億円増ですが、2020年には特殊要因として、のれん償却費2.2億円の計上がありました。また、主にユーロが10円円安となったことで販管費が為替影響で1.2億円増となっていることから、これらを除いた実質的な販管費増は5.1億円となります。

・プラス要因としては、のれん償却がなくなったことで2.2億円のプラスとなり、また為替の影響として売上には4.2億円のプラスであり営業利益には2.7億円のプラスとなりました。

・最も大きいのは大幅増収に伴う粗利増25.1億円のプラスであり、また粗利率改善等により3.4億円のプラスとなりました。

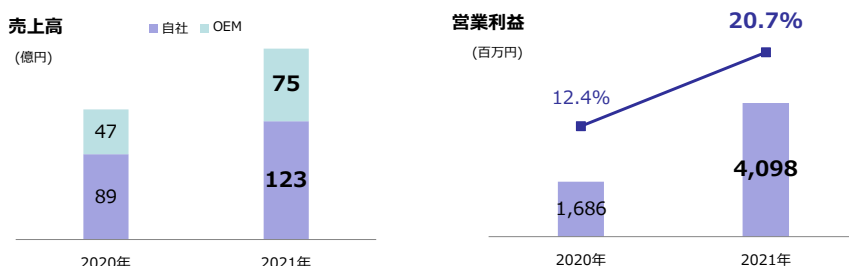


## II - 3 . 2021年上期 セグメント別実績

### ①写真関連事業

(単位：百万円)	2020年 上期実績	2021年 上期計画 (4/28計画)	2021年 上期実績	増 減 (対前年)		うち 為替影響	増 減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	13,549	17,900	19,847	+6,298	+46.5%	+4.0億円	+1,947	+10.9%
営業利益	1,686	3,150	4,098	+2,412	+143.0%	+2.3億円	+948	+30.1%
営業利益率	12.4%	17.6%	20.7%	+8.3%	-	-	+3.1%	-

- 自社ブランドはミラーレス用の大幅増収に加え、従来の一見レフ用も増収に転換
- OEMは前年の市場の大幅縮小の反動、受注機種増により大幅増収
- 大幅増収・販管費比率の低下により、**計画を大きく上回り、営業利益率は20%台へ**



・続いて、9ページ以降でセグメント別の業績をご説明します。

・写真関連事業では、売上高が前期比47%増となる63億円の増収となりました。

・自社ブランドではミラーレス用の大幅増収に加えて、減収が続いていた一眼レフ用も増収に転じたことで34億円の増収となり、OEMも反動増に加えて受注機種増により、共に大きく売上を伸ばしました。

・なお、自社ブランドでは、現地通貨ベースで、コロナからの立ち上がり及早かった中国が約50%増、個人消費が好調な米国で約45%増となり、欧州が約25%増、日本が約15%増となりました。また、売上規模はまだ小さいものの、ロシアは倍増、インドは3倍増となりました。

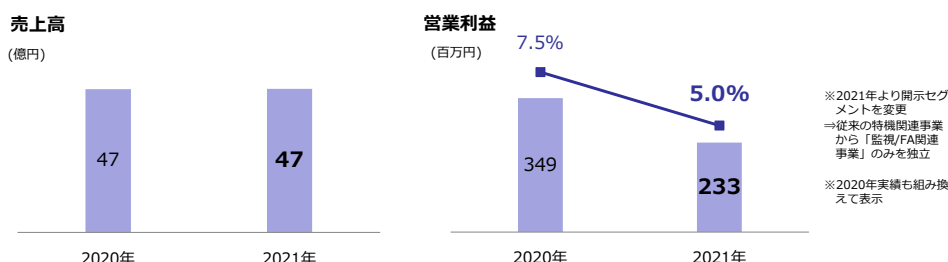
・営業利益は、大幅増収効果により、2.4倍となる大幅増益となり、営業利益率は20%台と高利益率を達成しました。

## II - 3 . 2021年上期 セグメント別実績

### ② 監視 & F A 関連事業

(単位：百万円)	2020年 上期実績	2021年 上期計画 (4/28計画)	2021年 上期実績	増 減 (対前年)		うち 為替影響	増 減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	4,667	4,800	4,678	+10	+0.2%	+0.3億円	△121	△2.5%
営業利益	349	500	233	△116	△33.2%	+0.5億円	+183	+366.8%
営業利益率	7.5%	1.0%	5.0%	△2.5%	-	-	+4.0%	-

- 監視、FA/マシンビジョン用は、**中国市場での売上倍増**をはじめ、着実に増収
- TV会議用が昨年から続く需要減少傾向の継続により減収



・続いて、監視&FA関連事業についてご説明します。

・なお、2021年よりセグメント区分を一部変更しており、監視&FA関連事業と、次ページで説明するモビリティ&ヘルスケア、その他事業については、2020年実績も新区分に組み替えています。

・監視&FA関連事業は、売上高はほぼ前期並みの47億円となりました。

・監視やFA/マシンビジョン用レンズは、従来からのセキュリティ需要に加えて顔認証・モニタリング等の用途拡大もあり、中国市場での売上高が前期比で約倍増となる等、中国・米州・欧州等のカメラメーカーへの販売が好調に推移し約5億円の増収となりました。

・一方で、TV会議用レンズがコロナ渦によりPCでのWEB会議等が普及したこともあり需要減少が継続しており、約5億円の減収となった結果、セグメント全体の売上高は横ばいにとどまりました。

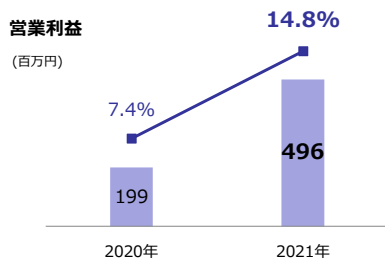
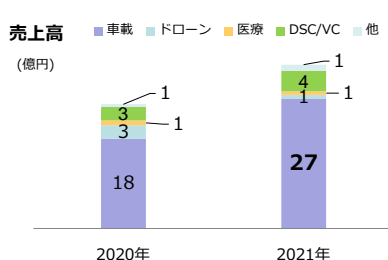
・売上高は前期並みとなりましたが、今後も安定成長が見込める監視やFA/マシンビジョン分野での事業拡大に向けた次機種製品開発は継続して積極的に行っていることもあり、営業利益は減益となりました。

## II - 3 . 2021年上期 セグメント別実績

### ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

(単位：百万円)	2020年 上期実績	2021年 上期計画 (4/28計画)	2021年 上期実績	増 減 (対前年)		うち 為替影響	増 減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	2,679	3,100	3,362	+683	+25.5%	△0.1億円	+262	+8.5%
営業利益	199	300	496	+297	+149.2%	△0.1億円	+196	+65.4%
営業利益率	7.4%	9.7%	14.8%	+7.4%	-	-	+5.1%	-

- 車載用レンズはセンシング向けが好調に推移し、**大幅増収継続**
- ドローンを受注機種の販売伸び悩みにより減収
- 車載用レンズの増収効果・DSC/VCでの利益改善等により、**計画を大きく上回り、営業利益率は2桁へ**



※2021年より開示セグメントを変更  
 ⇒従来のレンズ関連事業と特機関連事業の「監視/FA関連事業」以外を統合  
 ※2020年実績も組み換えて表示

・ 11ページは、モビリティ&ヘルスケア、その他事業のご説明となります。

・ モビリティ&ヘルスケア、その他事業の売上高は前期比26%増の7億円増収となる34億円へと成長しました。

・ ドローン用レンズは市場の縮小や既存製品の伸び悩み等の影響により減収となりましたが、コンパクトデジタルカメラ用やビデオカメラ用レンズは前期並みの売上高を維持し、車載カメラ用レンズで大幅増収を達成したことによるものとなります。

・ 車載カメラ用レンズは、好調な市場環境を背景にした所要増に加え、当社注力分野であるセンシング用途での販売増により約1.5倍増となる大幅増収となりました。

・ 車載用レンズでの大幅増収による粗利増に加えて、DSC/VCでの利益改善等により、営業利益は前期比2.5倍となる大幅増益の5億円となりました。

・ 以上が、2021年上期実績のご説明となります。

### Ⅲ. 2021年通期計画

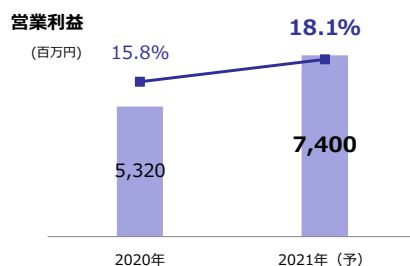
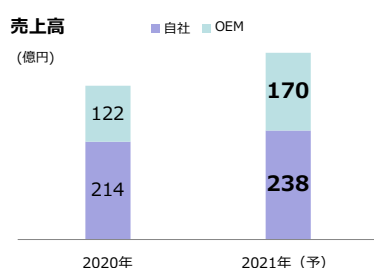


## Ⅲ-2. 2021年通期 セグメント別計画

### ①写真関連事業



(単位:百万円)	2020年 通期実績	2021年 通期計画 (4/28計画)	2021年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	33,569	38,900	40,800	+7,230	+21.5%	+1,900	+4.9%
営業利益	5,320	6,850	7,400	+2,079	+39.1%	+550	+8.0%
営業利益率	15.8%	17.6%	18.1%	+2.3%	-	+0.5%	-

- ▶ 上期に対しては伸び率鈍化も、**自社ブランド、OEM共に2桁増収**
- ▶ **営業利益率は高水準を達成した2019年と同水準に再び向上**



- ・続いて、セグメント別の通期計画をご説明します。
- ・写真関連事業では、売上高は前期比22%増収の408億円を見込みます。
- ・上期に対しては、前期比のハードルの高さの違いにより伸び率は鈍化しますが、通期で自社ブランド、OEM共に2桁増収を目指します。
- ・利益面も、2019年に達成した高水準の営業利益率18%台への利益率改善を図る、39%の営業増益を見込みます。
- ・計画に対しても、売上高では自社ブランドで6億円、OEMで13億円引き上げ、営業利益も5.5億円引き上げました。

## 自社ブランド新製品投入状況

区分	2019年投入		2020年投入		2021年投入		
ミラーレス	単焦点	12月発売  24mm F/2.8 OSD M1:2 (F051)	12月発売  35mm F/2.8 OSD M1:2 (F053)	1月発売  20mm F/2.8 OSD M1:2 (F050)			
	広角ズーム	7月発売  17-28mm F/2.8 RXD (A046)			6月発売  11-20mm F/2.8 RXD (B060)		
	標準ズーム					1月発売  17-70mm F/2.8 VC RXD (B070)	
	望遠ズーム			5月発売 	10月発売 	6月発売  150-500mm VC VXD (A057)	
	高倍率ズーム			6月発売  28-200mm F/2.8-5.6 RXD (A071)	年内発売予定  ソニー Eマウント用 富士フィルムXマウント用 18-300mm VC VXD (B061) 当社初の富士フィルムXマウント用レンズを ソニー Eマウント用と同時開発		
一眼レフ	5月発売  35-150mm F/2.8-4 VC OSD (A043)	6月発売  SP 35mm F/1.4 USD (F045)					

15 Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON  
Focus on the Future

・15ページでは、2021年の自社ブランド新製品投入状況をご説明します。

・2021年上期には、当社としては初のAPS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応の交換レンズとして、1月に大口径標準ズームレンズ 17-70mm F/2.8 VC RXD (B070)、6月に大口径超広角ズームレンズ 11-20mm F/2.8 RXD (B060)を発売しました。

・また、フルサイズミラーレス一眼カメラ対応の交換レンズも6月に超望遠ズームレンズ 150-500mm VC VXD (A057)を発売しています。2021年下期には6月発売の2機種が本格的に貢献を果たすこととなります。

・更には、既に7月に開発発表はしましたが、年内投入予定として、当社初の富士フィルムXマウント用レンズを、ソニーEマウント用と同時開発しています。

・この製品は、当社が得意とする高倍率ズームレンズであり、ズーム比16.6倍を実現したAPS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応の高倍率ズームレンズ 18-300mm VC VXD (B061) となります。

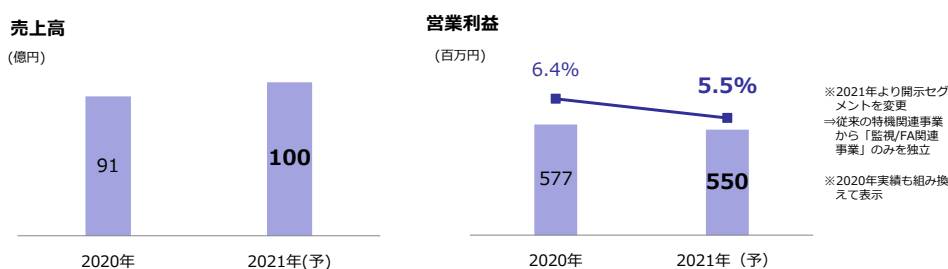
・なお、これらの他にも年内投入モデルを計画しており、今後もミラーレス用レンズのラインナップ拡充を図っていきます。

### Ⅲ- 2 . 2021年通期 セグメント別計画

#### ② 監視& F A 関連事業

(単位：百万円)	2020年 通期実績	2021年 通期計画 (4/28計画)	2021年 通期修正計画	増 減 (対前年)		増 減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	9,069	11,300	10,000	+930	+10.3%	△1,300	△11.5%
営業利益	577	700	550	△27	△4.7%	△150	△21.4%
営業利益率	6.4%	6.2%	5.5%	△0.9%	-	△0.7%	-

- ▶ 中国市場向けモデルでの開発遅れ等により売上高を下方修正も、前期比では**2桁増収**
- ▶ **中期を見据えてFAやカメラモジュールの開発機種増、中国での高機能機種開発体制も整備**



・監視&FA関連事業では、売上高は前期比10%増収の100億円を見込んでいます。

・監視やFA/マシンビジョン用は、下期も上期同様に増収を見込んでおり、TV会議用も上期では減収でしたが下期では増収転換を見込むことから、セグメント全体の下期の増収率は21%へと大きく改善する計画となります。

・増収ではあるものの、中期を見据えてFAやカメラモジュールの開発機種増、中国での高機能機種開発体制も整備していく局面であることから、経費増により、営業利益は前期並みを見込んでいます。

・計画に対しては、中国市場向けでの製品の開発遅れ等により売上高・利益共に引き下げてはいますが、引き続き第2の柱へと売上成長を図っていきます。

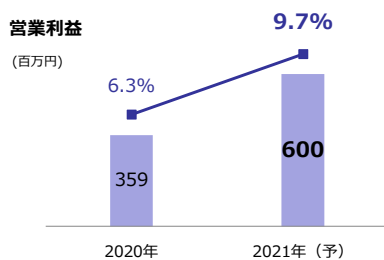
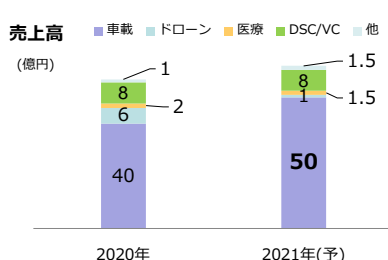


## Ⅲ-2. 2021年通期 セグメント別計画

### ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

(単位: 百万円)	2020年 通期実績	2021年 通期計画 (4/28計画)	2021年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	5,735	5,900	6,200	+464	+8.1%	+300	+5.1%
営業利益	359	450	600	+240	+66.9%	+150	+33.3%
営業利益率	6.3%	7.6%	9.7%	+3.4%	-	+2.1%	-

- 車載カメラ用レンズは、**売上高50億円の大台へ**
- ドローンは受注機種の販売伸び悩みにより減収
- DSC/VCは前年同期並みを維持



※2021年より開示セグメントを変更  
 ⇒従来のレンズ関連事業と特機関連事業の「監視/FA関連事業」以外を統合  
 ※2020年実績も組み換えて表示

- ・17ページはモビリティ&ヘルスケア、その他事業の説明となります。
- ・前期比で売上高は8%増収、営業利益は67%増益と、増収増益を計画しています。
- ・車載分野は大幅増収となりますが、上期同様にドローン用レンズの販売低迷が継続する影響で、増収率は2桁に届かないものの、DSC/VCでは売上横這いながらも利益改善が図られていることから、営業利益は大幅増益を目指すものとなります。
- ・車載分野では、株式会社デンソーより、当社の車載用レンズ開発における課題解決力、量産における徹底した品質保証体制などを高く評価していただき、「信頼賞」を受賞するなど、車載カメラの高画素化、高い信頼性要求といったニーズに対し、先進的な技術を取り込み、高品質な製品の量産化を実現しています。今後、より一層、予防安全や自動運転を支える、画像センサーやLIDAR（ライダー）に用いられる高性能な光学製品の提供を通じた社会課題解決に貢献し、事業拡大を図っていきます。
- ・また、注力する医療分野でも医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格であるISO13485を取得しました。医療機器の製造・供給における安全性の証明と共に、当社の強みである極小径レンズや薄膜技術などで、低侵襲を可能にする医療用レンズを提供することにより、国内および欧米をはじめとする海外市場での事業拡大を推進していきます。
- ・以上が、2021年通期計画のご説明となります。

### Ⅲ- 3 . ESGへの取り組み—価値創造プロセス



### Ⅲ- 3 . ESGへの取り組み—環境ビジョン

#### 環境ビジョン2050

地球環境問題を人類共通の課題と認識し、環境負荷の低減、環境の保全に努め、  
環境と調和した持続可能な社会づくりに貢献します。

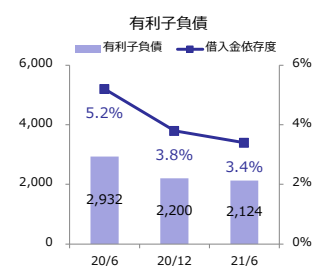
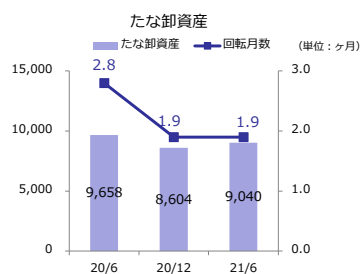


## IV. 参考情報

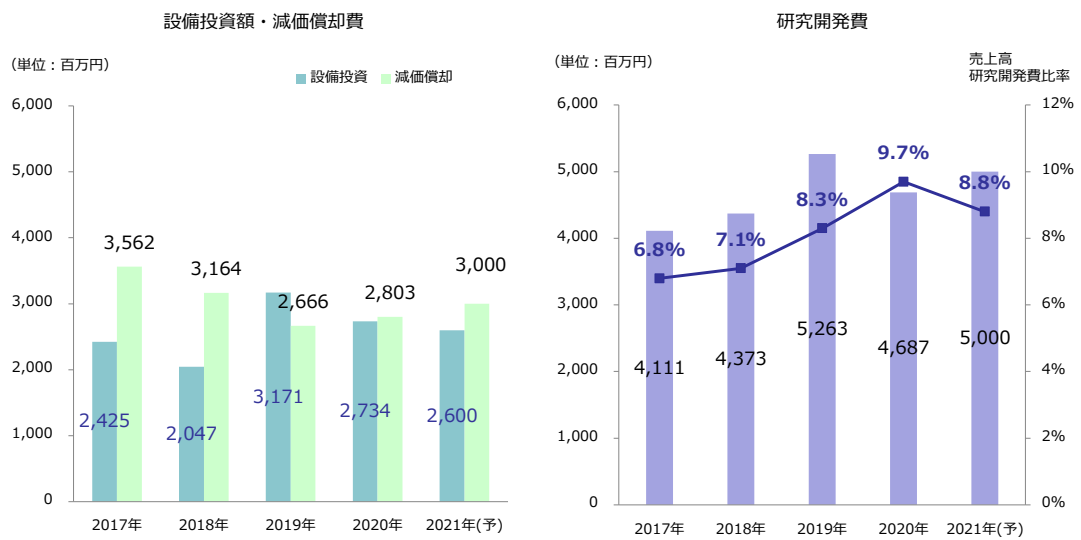
## IV- 1 . 財政状態

(単位：百万円)

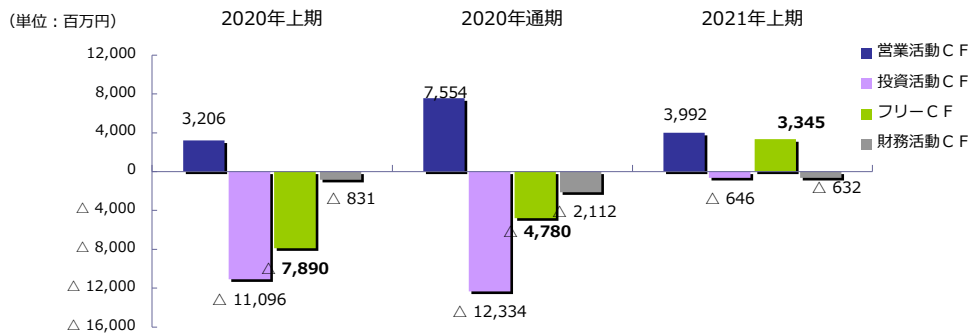
	2020年 12月末	2021年 6月末	増減 (対前期末)
現金・預金	21,417	24,737	+3,319
受取手形・売掛金	10,318	11,316	+997
たな卸資産	8,604	9,040	+436
その他流動資産	1,130	1,003	△126
固定資産	16,719	16,660	△59
<b>資産合計</b>	<b>58,190</b>	<b>62,758</b>	<b>+4,568</b>
流動負債	10,198	11,215	+1,016
固定負債	2,214	2,208	△5
純資産	45,777	49,334	+3,556
<b>負債純資産合計</b>	<b>58,190</b>	<b>62,758</b>	<b>+4,568</b>
自己資本比率	78.7%	78.6%	△0.1%



## IV-2. 設備投資額、減価償却費、研究開発費

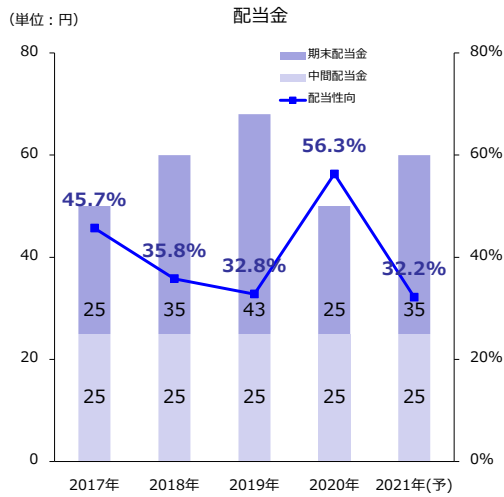


## IV-3. キャッシュ・フロー



	2020年上期	2020年通期	2021年上期
営業活動CF	3,206	7,554	3,992
投資活動CF	△11,096	△12,334	△646
フリーCF	7,890	4,780	3,345
財務活動CF	△831	△2,112	△632
現金及び現金同等物の期末残高	19,476	21,417	24,737

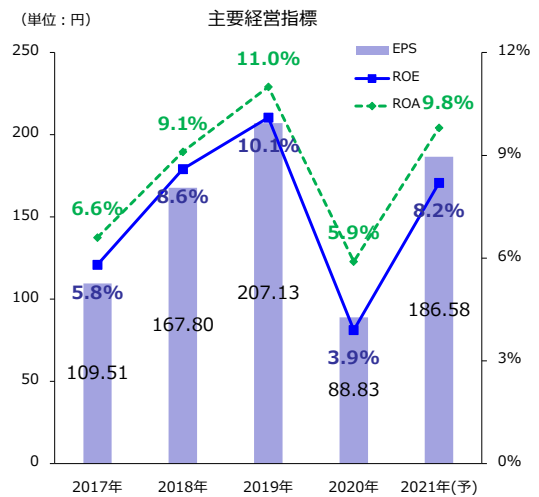
## IV-4. 配当金、主要経営指標



↑  
2020年3月：自己株式取得を実施（89億円）

### 配当政策

- ・配当性向目標(連結ベース)：35%程度
- ・安定配当



ROE = 当期純利益/純資産 (分母は期中平均)  
ROA = 経常利益/資産合計 (分母は期中平均)



## IV-5. 為替影響

### ①2021年上期 為替影響額

	為替レート		影響額	
	2020年上期実績	2021年上期実績	売上高	営業利益
米ドル	108円24銭	107円82銭	△0.8億円	+0.1億円
ユーロ	119円36銭	129円92銭	+3.3億円	+2.8億円
他通貨	-	-	+1.7億円	△0.2億円
合計	-	-	+4.2億円	+2.7億円

(前期実績に対する影響額)

### ②2021年下期 為替感応度

	為替レート	1円の変動(円高)による影響額	
	2021年下期前提	売上高	営業利益
米ドル	108円00銭	△1.2億円	±0.0億円
ユーロ	128円00銭	△0.4億円	△0.3億円

## 将来の事象に係る記述に関する注意

1. 本資料は、2021年12月期第2四半期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本プレゼンテーション資料及び当社代表者が口頭にて提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
3. 実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があり得ますことをご承知おき下さい。
4. 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。